

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772401663
法人名	有限会社 真美
事業所名	グループホーム 花梨
訪問調査日	平成 19 年 9 月 1 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月4日

【評価実施概要】

事業所番号	2772401663
法人名	有限会社 真美
事業所名	グループホーム 花梨
所在地	枚方市南中振2丁目9番10号 (電話) 072-834-2800

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成19年9月1日
評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	6 人	常勤	4 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,644 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	3 名	男性	0 名	女性	3 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかいえ歯科 石川整形外科内科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京阪電車光善寺駅から7分ほどの旧家の多い集落の中にある。屋敷の中に母屋と別棟にグループホーム用として平成14年に新築された。だから隣近所は苗字が同じ親戚筋の家が多い。代表者(管理者)は主婦業から特養で6年弱高齢介護を経験して自宅の敷地内に当ホームを開設した。定員5名という小規模で他ではマネの出来ない行き届いたケアが行われている。母屋に住む代表者の高齢の母上までが畑で採れた野菜や果物を持ってきて、利用者や職員の話し相手をする。利用者と一緒に書道教室をうける、近所の高齢者を誘ってホームの行事に参加している。まさに家族で運営する地元で溶け込んだホームとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	玄関口の段差対応や栄養バランスの定期的チェック、歯科医診断等の取り組み課題については、出来るところから対応に取り組み進行中である。引き続き取り組みを推進して欲しい。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が参加した評価となっているので問題はないが、自己評価項目の意図する指針を項目ごとにさらに分析して成果に結びつく自己評価を目指して欲しい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、議事録が残されている。地域包括支援センター、自治会長(民生委員)、家族代表等が出席して、運営状況や災害対策、地域との繋がりについて議論されている。管理者はさらに会議の充実を図って行きたい意向を持っている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との信頼関係は良好である。管理者や職員が家族の不安や意見要望を引き出す(云いやすい環境づくり)努力をしている。利用者の苦情対応ノートをつくり職員が話し合っケアのやり方の改善に結び付けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の高齢者を招待した数々の行事企画が豊富である。落語会、室内運動会などユニークな企画もある。地域の皆さんの中で暮らし続ける事が実践されている。このような継続した活動が災害対策面でも役に立つと思われる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は「笑顔と温もりを大切に」とし、運営の方針には「地域住民と交流の中で・・・生活を営む」と表現し、グループホーム花梨の独自の方針となっている。	<input type="radio"/>	現在の運営方針および基本理念で違和感を感じられないが、基本理念の中に地域と共に生きる考えを表現したらなお良いと思う。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ここでは、利用者と管理者・職員が一体となって地域の中で暮らして行くという実践が自然に行われているように思う。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昔から住んでいた住民と同じように近所付き合いが存在している。自治会、老人会、お祭りなど地域住民となら変わらない活動となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は当サービス評価を積極的に理解している。改善課題についても解決を目指した取り組みが行われている事が今回の外部評価でも確認出来た。	<input type="radio"/>	サービス評価の取り組みの狙いや意義について職員で話し合う場を設けるなどをして、更なる外部評価の活用を期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議が開催されている。地域包括支援センター、自治会長(民生委員)、家族代表が出席して、ホームの行事や利用者の生活状況を報告して意見を聞く内容となっている。管理者は会議の充実が課題と認識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は枚方市の担当部門と研修会や連絡会議の場で積極的に情報交換を行う姿勢をもって運営の参考としている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者が少人数である上に家族の訪問頻度が多く、各家族との繋がりが強いと感じる。親戚のようである。暮らしぶりや、症状、健康状態についてもれなく報告しているので家族が安心していているように調査員は感じた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が要望や苦情を言える雰囲気や場づくりに管理者は心掛けている。苦情記録ノートをつくりフォローを行うようにしている。スタッフ会議でも職員に意識付けを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。新任の時にはホーム便りでも紹介している。新任の職員は利用者や家族との信頼関係作りに努力をしている、管理者や先輩職員が側面から応援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者(運営者)は職員の学習意欲によく理解を持ち応援している。資格取得には時間や資金的支援も考慮している。管理者は自分自身の経験から「仕事は楽しくなければいけません」と話してくれた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	枚方市のグループホーム間の交流は多い。地域包括支援センターでの定期的なグループホーム連絡会を活用してお互いのサービス向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	調査訪問日には体験入居中の利用者がいた。入居予定者や家族の納得や安心はもちろんの事であり、入居中の現利用者も含めて馴染みの関係が保たれるように配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が少人数であるからか、あるいはスタッフの目が良く行き届いているからか、ここでは家族のような生活が営まれている。利用者は周りのスタッフやご近所から愛されながら生活しているように感じられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はまず、利用者の思いや希望を聞くように努めている。家族に本人の意向を確認する時もあるが、本人本位になるようにしている。	○	入居後に利用者や家族から聞き取った本人の昔の経験や生活歴を少しずつでも書きとめて、個人プロフィールにまとめるようにして、後々のケアに役立てるように出来ないか、職員で検討して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の出来る事、出来ない事、希望する暮らし方や健康状態について家族や関係者と相談の上に具体的な介護計画書を作成して実施に移す。介護計画書は家族に説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のスタッフ会議の時にケアカンファレンスを行っている。利用者全員について状況を報告し合い、変化が生じた場合は介護計画書を見直している。見直した介護計画書を家族に説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合の送迎をはじめ病院との相談等も家族の意向により柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重して、引き続きかかりつけ医による受診を支援している。管理者(運営者)が地元の人であるから地域のかかりつけ医との関係も良好である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のことについては日ごろから家族と話をするようにしている。家族が心配しないように対応の内容について説明をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの人となりに尊厳の気持ちを持って職員が接している様子が伺える。プライバシーへの配慮については管理者・職員がお互いに注意しあいながら対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は何時も見守られながらの落ち着いた暮らしが出来ているのが良く分かる。少人数のため職員の目が良く行き届き、希望に沿った日常が送れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な野菜を豊富に使った食事を職員は心がけている。畑で取れた野菜が食べられる。会話のある食事、後片付けのお手伝い、食卓には花が飾られて、普通の家庭の食事風景がここにはある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭的で広い浴槽である。入浴予定は決められているが、利用者の体調を考慮した柔軟な対応が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テラスの清掃、後片付け、掃除等利用者の残された能力を発揮して貰うように職員は場面作りに工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良くて体調の良い日は中庭へでたり、近所の道を散歩する。家族が訪問した時に食事や喫茶に出かける。職員は出来るだけ外の空気に触れるように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通りから入る門、中庭、玄関と施錠しないケアが行われている。周辺は旧家が多く安全面も比較的確保されているから安心である。近所の住民との信頼関係も鍵をかけない運用につながっているように感じる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練や災害リスク管理の学習も行っている。万が一を想定して近隣の住民にも協力をお願いする事を通常から心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は記録されて、個人別の健康管理表に保存されて必要な時に活用できるようになっている。スタッフ会議で個人別栄養状態についても話し合われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定員5名の設計としては余裕がある。玄関は旧家の玄関のようになっている。ホームエレベーターが設置されているので2階の居室との行き来が安心である。居間は日当たりがよく、それに静かである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく広く清潔に保たれている。職員の配慮が伺える。利用者の使い慣れた品物や写真が飾られている。落ち着いて過ごせるような居室づくりを職員が工夫しているように感じる。		